

十勝アウトドア観光推進プラン  
～アウトドアの聖地「十勝」の推進～

令和3年3月23日

経済産業省北海道経済産業局

北海道十勝総合振興局

帯広市・音更町・士幌町・上士幌町・鹿追町

新得町・清水町・芽室町・中札内村・更別村

大樹町・広尾町・幕別町・池田町・豊頃町

本別町・足寄町・陸別町・浦幌町

## 目次

|                       |   |
|-----------------------|---|
| はじめに                  | 2 |
| 1. 十勝地域における観光の現状      | 3 |
| (1) 観光の現状（令和元年度）      |   |
| (2) 新型コロナウイルス感染症による影響 |   |
| 2. 我が国の観光政策の現状と将来展望   | 4 |
| (1) 観光政策の現状と方向性       |   |
| (2) 将来展望              |   |
| 3. 十勝地域の観光の方向性        | 5 |
| (1) 観光振興の課題           |   |
| (2) 観光振興に必要な取組        |   |
| (3) アウトドア観光の可能性       |   |
| 4. 十勝アウトドア観光推進プラン     | 8 |
| (1) 十勝地域における観光の目指すべき姿 |   |
| (2) 本プランにおける3つの視点     |   |
| (3) 本プランの将来展望         |   |

## はじめに

観光は、成長戦略の柱であり、地方創生の切り札である。

新型コロナウイルス感染症の影響により、訪日外国人旅行者をはじめ、観光需要は大きく減少し、多くの産業に深刻な影響が生じているものの、観光立国を目指し、観光を通じて日本経済の活性化を図る方針に変わりはない。

日本を代表する食料供給基地である十勝地域は、日高山脈や大雪山、雌阿寒岳、太平洋に囲まれ、豊かな自然環境や多彩な食文化などを有しており、これらを活かすことによって、すそ野の広い観光を地域経済活性化の起爆剤とすることができる。

アウトドア観光は、今後、十勝地域を挙げて観光振興に取り組む上で、雄大な自然など地域の強みを活かし、他地域に比して優位性をもつ大きな可能性のある分野である。

このため、十勝アウトドア観光推進プラン（以下「本プラン」という。）を策定し、令和5年度に宿泊客延数を230万人泊とするなど新たな目標に向かって取り組むこととする。

アウトドア観光の推進が、十勝地域における新たなサービスや雇用などの創出を通じて、産業・経済の好循環を生み出し、地域経済の活性化に寄与するためにも、地域資源を活かし、磨き上げ、国内外に伝えていく必要がある。

これらを踏まえ、本プランにおいては、「i) 量から質への転換による魅力向上」、「ii) 国内回帰及びポストコロナを見据えた新市場開拓」、「iii) ウィズコロナ等に向けた安心・安全環境の整備」を3つの視点としてとりまとめた。

今後、アウトドアの聖地「十勝」の実現に向け、十勝地域が一丸となり、本プランの推進に取り組んでいく。

## 1. 十勝地域における観光の現状

### (1) 観光の現状（令和元年度）

十勝地域における観光は、堅調な動きとなっており、安定した観光消費が地域経済の活性化に繋がっている。

十勝地域の観光入込客数及び宿泊客延数は、台風等大雨や北海道胆振東部地震、新型コロナウイルス感染症などの影響による減少があるものの、全体的には右肩上がり推移※1しており、観光入込客数の内訳としては、道内客の割合が多い一方、道外客の伸びが大きくなっている※2ほか、宿泊客延数の内訳としては、国内客が多いものの、訪日外国人客の伸びが大きくなっている※3。

市町村別には、帯広市、音更町、中札内村などの観光入込客数が大きく、観光入込客数に比べて、帯広市や音更町、新得町などの宿泊割合が高くなっている※4。

また、訪日外国人客では、台湾や香港をはじめとするアジア圏からの観光客が多くを占めている※5。

※1：十勝地域の観光入込客数は、平成24年度961.9万人から令和元年度1,026.5万人に、宿泊客延数は、平成24年度192.5万人泊から令和元年度210万人泊に伸びている。〈十勝管内観光入込客数について：北海道十勝総合振興局〉

※2：令和元年度の十勝地域の観光入込客数は、道内客が全体の72.9%を占める。平成24年度から令和元年度までの伸び率は、道内客が+2.6%（平成24年度729.3万人から令和元年度748.2万人）、道外客が+19.0%（平成24年度233.9万人から令和元年度278.2万人）となっている。〈十勝管内観光入込客数について：北海道十勝総合振興局より算出〉

※3：令和元年度の十勝地域の宿泊客延数は、国内客が全体の92.3%を占める。平成24年度から令和元年度までの伸び率は、国内客が+7.1%（平成24年度180.8万人泊から令和元年度193.7万人泊）、訪日外国人客が+39.8%（平成24年度11.6万人泊から令和元年度16.3万人泊）となっている。〈十勝管内観光入込客数について：北海道十勝総合振興局より算出〉

※4：令和元年度の十勝地域の観光入込客数の上位5市町村は、帯広市（27.4%）、音更町（13.8%）、中札内村（9.3%）、鹿追町（7.6%）、新得町（6.2%）、宿泊客延数の上位5市町村は、帯広市（56.7%）、音更町（19.8%）、新得町（6.4%）、幕別町（4.5%）、上士幌町（3.5%）となっている。（）内は全体に対する構成比。〈十勝管内観光入込客数について：北海道十勝総合振興局より算出〉

※5：令和元年度の十勝地域の訪日外国人宿泊客延数は、アジア圏が86.4%を占める。上位5地域は、台湾（33.6%）、香港（14.4%）、中国（13.9%）、シンガポール（10.8%）、韓国（7.3%）となっている。（）内は全体に対する構成比。〈十勝管内観光入込客数について：北海道十勝総合振興局より算出〉

## (2) 新型コロナウイルス感染症による影響

令和2年1月以降、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う甚大な影響は、多方面に波及している。

観光需要においても、水際対策の徹底や国内における旅行控えの動きが生じたことなどによって、国内外の観光需要は大幅に減少しており、十勝地域の観光も、大きな影響を受けている※6。

他方、観光需要の大幅な減少が地域経済に大きな影響を及ぼしたことにより、観光が地域経済にとって重要な役割を果たしていることを改めて認識する機会となった。

※6: 令和2年度上期の十勝地域の観光入込客数は459.9万人(▲49.0%)、宿泊客延数は56.4万人(▲51.6%)、訪日外国人宿泊客延数は361人泊(▲99.4%)となっている。( )内は対前年同期比。<十勝管内観光入込客数について: 北海道十勝総合振興局>

## 2. 我が国の観光政策の現状と将来展望

### (1) 観光政策の現状と方向性

我が国において、観光は成長戦略の柱、地方創生の切り札である。

平成28年3月に明日の日本を支える観光ビジョン構想会議(議長: 内閣総理大臣)において「明日の日本を支える観光ビジョン」を策定し、大胆な取組を進めてきた結果、訪日外国人旅行者数は大幅に伸びている※7。

また、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、令和2年7月に観光立国推進閣僚会議(主宰: 内閣総理大臣)において決定した「観光ビジョン実現プログラム2020」では、国内旅行需要を強力に喚起するとともに、感染症終息後の中長期的スパンにおいて引き続き重要となるインバウンドの回復を図ることとし、併せて、新型コロナウイルス感染症を契機にワーケーション、サテライトオフィスの活用など、より安全で快適な新しい旅行スタイルを普及させることとしている。

※7: 令和元年の訪日外国人旅行者数は3,188万人と7年連続で過去最高を更新している。<訪日外国人旅行者統計: 日本政府観光局(JNTO)>

## (2) 将来展望

我が国における将来展望として、「明日の日本を支える観光ビジョン」において、従来の政府目標を大幅に前倒しし、かつ、質の高い観光交流を加速させるべく、2030年に訪日外国人旅行者数6,000万人、訪日外国人旅行消費額15兆円等の目標を設定し、新たな目標に向かって進んでいくこととしている※8。

新型コロナウイルス感染症終息後の中長期的スパンについては、「観光ビジョン実現プログラム2020」において、インバウンドに大きな可能性があるのは今後も同様であり、2030年に訪日外国人旅行者数6,000万人の目標は十分達成可能との見通しである。

※8：訪日外国人旅行者数 2020年：4,000万人 2030年：6,000万人  
訪日外国人旅行消費額 2020年：8兆円 2030年：15兆円  
地方部（三大都市圏以外）での外国人延べ宿泊者数 2020年：7,000万人泊 2030年：1億3,000万人泊  
外国人リピーター数 2020年：2,400万人 2030年：3,600万人  
日本人国内旅行消費額 2020年：21兆円 2030年：22兆円

<明日の日本を支える観光ビジョン：明日の日本を支える観光ビジョン構想会議>

## 3. 十勝地域の観光の方向性

### (1) 観光振興の課題

十勝地域における観光振興は、様々な課題を抱えている。

人口減少・少子高齢化による中長期的な国内客数の減少※9が予測されていることに加え、宿泊客延数の多くを占める国内客の冬季にかけて落ち込む季節偏在や、道央や道南など他地域に比して弱い誘客力及び宿泊割合※10、地域内の移動距離の長さや二次交通の不便さなどが恒常的な課題として挙げられる。

また、新型コロナウイルス感染症の影響によって新たに生じた諸課題についても適切に対応する必要がある。

※9：日本の総人口は、長期の人口減少過程に入っており、令和11年に人口1億2,000万人を下回った後も減少を続け、令和47年には8,808万人になると推計される。<令和2年版高齢社会白書：内閣府>

※10：令和元年度の観光入込客数に占める宿泊客数の割合は、道央地域18.6%、道南地域27.2%、道北地域14.6%、オホーツク地域18.1%、十勝地域16.7%、釧路・根室地域17.5%となっている<令和元年度北海道観光入込客数調査報告書：北海道>

## (2) 観光振興に必要となる取組

十勝地域が抱える観光振興の課題を踏まえ、今後の観光振興においては、従来、取り組んできた観光入込客数の増加を目指した施策から、宿泊客延数や観光消費額等の増加を目指した施策へのシフトが急務である。施策のシフトによって、体験型観光の推進や高付加価値化などを通じた観光の質向上を図り、観光消費単価の増加に寄与することが、今後の十勝地域の観光振興には重要となる。

また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う水際対策の徹底で、訪日外国人旅行者の受け入れが困難になったことにより、誘客地域の偏在が顕在化したことを踏まえ、今後、安定した宿泊客延数や観光消費額等の増加を目指すためにも、誘客地域の偏在への対策が必要であるとともに、我が国の人口減少・少子高齢化が続く中における新型コロナウイルス感染症終息後の中長期的スパンを見据え、人口増加・経済成長を続ける諸外国からの観光客の取り込みも不可欠となる。

そして、今後、国内客及び訪日外国人旅行者を呼び込むにあたっては、感染症や自然災害のリスクなどを踏まえ、観光客に安心・安全を提供することのできる受入環境づくりが重要な取組となる。

## (3) アウトドア観光の可能性

十勝地域の観光振興にあたり、今後、観光の質向上や、誘客地域の偏在への対策、中長期的スパンを見据えた取組、そして、安心・安全な受入環境の整備などが重要となる中、豊かな自然環境など十勝地域の強みを活かしつつ、これらの事項を満たす可能性のある分野として、アウトドア<sup>※11</sup>が挙げられる。

十勝地域は、太平洋を背に、大雪山国立公園、阿寒国立公園、日高山脈襟裳国定公園に囲まれ、内陸部の平野には大雪山系を水源とする十勝川が流れるなど、山麓や森林、平野、河川、湖沼等の多様なフィールドに恵まれており、十勝地域におけるアウトドアは、豊かな自然環境を活かした様々なコンテンツのほか、地域の特色を活かしたアクティビティや取組の存在、晴天率の高さなど、他地域に比して優位性<sup>※12</sup>がある。

また、中長期的スパンを見据えて、訪日外国人旅行者を取り込むにあたり、観光消費額等を増加させる上では、旅行支出の大きい欧米豪観光客※13を対象とすることが効果的だと考えられる。欧米豪観光客や富裕層は、アドベンチャーツーリズム(AT)※14への関心が高く、令和3年度に北海道においてアドベンチャートラベル・ワールドサミット(ATWS)※152021も開催予定であることなどから、十勝地域は、今後のアドベンチャーツーリズム(AT)の推進において、優位な地域になりえる。

さらに、十勝地域は、広大な面積と低い人口密度※16によって、新型コロナウイルス感染症の集団感染防止のために避けるべきとされる密閉空間、密集場所、密接場面を回避する環境が整っており、ウィズコロナに合った安心・安全な受入環境として適している。

※11：アウトドアとは、アウトドア・アクティビティの略称。自然の中で、自然の恵みを受けながら、自然とふれあうために行われる野外活動をいう。具体的には、キャンプやサイクリング、ハイキング、ラフティング、パラグライディング、釣り、野鳥観察などの野外活動を指す。

※12：十勝地域の特色を活かしたアクティビティとして、農場ピクニックや犬ぞり体験などがあるほか、地域資源であるモール温泉を活かしたサウナが盛んで、アウトドアサウナの動きも活発である。また、十勝地域は、年間を通じて、全国的にも有数の日照時間に恵まれ、年間降水量も少ない。

※13：道内観光消費単価は、道内宿泊客で32,594円、道外客で72,316円。外国人客は143,293円で、東アジア(中国、台湾、香港、韓国)の平均額で139,353円、欧州豪の平均額で176,288円となっており、最高額はオーストラリアの251,572円。<令和元年度北海道来訪者満足度調査：公益財団法人北海道観光振興機構>

※14：アドベンチャーツーリズム(AT)とは、アクティビティ、自然、異文化体験の3要素のうち、2つ以上で構成される旅行をいう。

※15：アドベンチャートラベル・ワールドサミットとは、国際的な団体であるアドベンチャートラベル・トレードアソシエーション(ATTA)が主催するサミット。世界各国からAT関係者800人近くが参加し、各種カンファレンスのほかエクスカーション(地域のアクティビティ体験等)、情報発信、商談会等が行われる。

※16：人口密度は、十勝地域で31.7人/km<sup>2</sup>であるのに対し、北海道で64.5人/km<sup>2</sup>、全国で336.3人/km<sup>2</sup>となっている。<平成27年国勢調査：総務省、令和2年全国都道府県市区町村別面積調(10月1日時点)：国土交通省国土地理院より算出>



## 4. 十勝アウトドア観光推進プラン

### (1) 十勝地域における観光の目指すべき姿

今後の十勝地域における観光振興にあたって、本プランを策定し、アウトドア観光の推進によって、地域の魅力を活かした自然と共生する持続的な観光地及びウィズコロナ等に向けた安心・安全な観光地を目指すこととする。

#### ○ 目指すべき姿

- ・地域の魅力を活かした自然と共生する持続可能な観光地※17
- ・ウィズコロナ等に向けた安心・安全な観光地※18

※17：取り組むべき方向性として、魅力や質の向上、販路の開拓などが挙げられる。

※18：取り組むべき方向性として、プロモーションの強化や受入体制の整備などが挙げられる。

### (2) 本プランにおける3つの視点

本プランの推進期間は3か年（令和3年度～令和5年度）とし、十勝地域における観光の目指すべき姿を実現するため、以下3つの視点に沿った取組を行う。

本プランの推進にあたっては、地域の事業者や関係機関等との連携を図りながら、推進期間における状況などを踏まえ、柔軟に取り組むこととする。

なお、新型コロナウイルス感染症の感染状況が見通せないことから、状況に応じ、弾力的に取組を進めていく。

#### i) 量から質への転換による魅力向上

十勝地域のアウトドア観光について、豊かな食と自然を活かした富裕層向けサービスの充実やブランド力の強化などを実現することにより、十勝地域の魅力向上に資する※19。

## ii) 国内回帰及びポストコロナを見据えた新市場開拓

地域資源を活かし、国内のアウトドア観光需要の喚起を重点的に展開し、安定した観光需要の取り込みを図る※20。

また、感染症終息後を見据え、アジア圏から安定的に訪日外国人旅行者を呼び込むとともに、アドベンチャートラベル・ワールドサミット（ATWS）を契機とした観光消費額の高い欧米豪観光客等の新市場獲得を図るなどインバウンドに対する取組を展開することにより、中長期的な十勝アウトドア観光の推進に寄与する※21。

## iii) ウィズコロナ等に向けた安心・安全な受入環境の整備

雄大な自然による密閉空間、密集場所、密接場面を回避する環境の活用や宿泊施設等の体制など安心・安全な受入環境の整備により、新型コロナウイルス感染症や災害を契機とする観光動向変容に応じた需要を取り込む※22。

※19：新たなサービス・商品の開発やアウトドアギアの高付加価値化等の推進などが想定される。

※20：誘客対象の見つめ直し、道内客による道内旅行の推進（地域偏在のみられる道央圏からの誘客展開）などが想定される。

※21：アドベンチャートラベル・ワールドサミット（ATWS）2021への参画支援や海外事業者との商談などによる販路開拓支援などが想定される。

※22：ワーケーションのためのWi-Fiなどの環境整備・プロモーション等の展開や、宿泊施設等のウィズコロナに則したキャッシュレス対応や非接触環境整備等の推進などが想定される。

## (3) 本プランの将来展望

目指すべき姿に向けた数値目標として、令和5年度に十勝地域の宿泊客延数230万人泊等を設定する。

本プランの推進により、新型コロナウイルス感染症の影響によって落ち込んだ観光需要の回復を図ることに加え、観光を更なる成長軌道に乗せ、アウトドア観光による十勝地域の活性化を目指す。

○ 数値目標

- ・ 宿泊客延数：令和 5 年度 230 万人泊（令和元年度 210 万人泊）
- ・ 観光入込客数：令和 5 年度 1,140 万人（令和元年度 1,026 万人）
- ・ 十勝アウトドア観光消費額：令和 5 年度 8.9 億円  
（令和元年度 8.1 億円）